

病院と地域をむすぶ



2016年4月号

発行：総合病院 南生協病院

3
月
実
績

一日外来患者数：859.0人 一日入院患者数：283.8人 紹介患者数：567人
ベッド稼働率：92.2% 救急車：261台 手術数：122件

食物アレルギー・アナフィラキシーから子どもを守ろう

4月1日付けで南生協病院に参りました、小児科の増田進と申します。専門はアレルギー疾患です。近年、食物アレルギーの患者さんが増え、食物アレルギーによるアナフィラキシー（全身に色々な症状が急速に生じる）は児童200人に1人いるといわれます。

原因食物を食べたり、触れたり、時には食後の運動で見られます。症状の多くは1時間以内に蕁麻疹や咳や腹痛が出現します。時には呼吸困難や血圧低下による意識を失う症状（アナフィラキシーショック）があり、これは救急医療（要請）が必要です。しかし、病院や診療所でなくても、成人が小児のふとももに『エピペン』という薬剤を筋肉注射（容易に注射できる構造）することで、一時的な回復が期待できます。保護者、周りの成人、保育士や教職員の皆さんが勇気を持って対応していただくことで、アナフィラキシーのお子さんを助けてあげられます。増田は、保護者や教育関係者の方にエピペンの対応ができるように研修会を実施してきました。今後も継続したいと思っています。ご要望がありましたら、小児科増田までご相談ください。



小児科部長 増田 進

小児科部長 増田 進

助産所はあとにぎわっています！

2010年、南生協病院の新築移転とともに法人が開設した助産所です。

分娩の取り扱いはまだできていませんがそれ以外のことはすべて対応しています。主になる業務は産後入院です。南生協病院で出産された方ご希望の方は産後1日目から5日間ほど利用されます。他院で出産され、「退院後の援助者がいない」ことで、1週間前後利用になる方もあります。

和室での生活になるので、より退院後の生活をイメージしやすい環境で、ご家族の宿泊も大丈夫です。その他骨盤ケア、お灸、ベビーマッサージの教室も開催しており、ママサークルやお茶会などママと赤ちゃん、お兄ちゃんお姉ちゃんたちで賑わっています。

妊娠の10ヶ月間や出産時はもちろんですが、産後こそしっかり助産師を頼っていただきたい、とスタッフ5名でがんばっています。

授乳中のおっぱいのトラブル、卒乳時のケア、など「産前も産後も頼れる安心と暖かさを感じられる場所」はあと はどなたでもWELCOMEですよ！！

助産所はあと 助産師 原田さゆり